

令和8年度 学校だより



りんごの里から 7月号

青森県立弘前第一養護学校 令和8年7月21日発行 進路指導主事 中畑 晋

今年度より進路指導を担当することになりました。中畑晋（なかはた すすむ）と申します。よろしくお願ひします。今回の通信では、家庭生活がこどもの社会的自立に大きく関わっていることをお話させていただきます。

家庭で育てる自立の力 ～将来の社会参加に向けて～

高等部を卒業した後、多くのこどもたちは社会の中で働きながら生活していくことになります。そのため、卒業後に急に社会人になるのではなく、小学部・中学部・高等部のそれぞれの段階で、将来の自立や社会参加に必要な力を少しずつ身に付けていくことが大切です。学校で学ぶ知識や技能だけでなく、日常生活の中でのさまざまな経験も、将来の生活や仕事につながる大切な学びとなります。

社会の中で生活し働き続けるためには、最後まで取り組む持続性、周囲と協力する協調性、自ら進んで行動する自主性、社会のルールやマナーを理解する社会性、自分の役割を果たそうとする責任感などが必要です。また、仕事や生活を継続するための体力や健康も欠かせません。これらの力は一度に身に付くものではなく、日々の経験を積み重ねる中で育まれていきます。

苦手なことや難しいことにも挑戦し、繰り返し経験することによってできることは増えていきます。失敗や試行錯誤を重ねながら自信を付け、自分でできることの幅を広げていくことが成長につながります。一方で、何でも周囲に任せてしまうと、自分の力を伸ばす機会が少なくなってしまうます。

そのため、家庭での役割はとても重要です。家庭はこどもにとって最も身近な社会であり、自立に向けた学びの場でもあります。掃除や洗濯、調理、片付け、買い物などの手伝いを通して、自分の役割を理解し、家族の役に立つ経験を積むことができます。最初は簡単なことから始め、継続して取り組むことで習慣となり、自ら行動する力が育ちます。

また、家族から「ありがとう」と感謝される経験は、自己肯定感や自分の存在価値を高めます。人の役に立つ喜びを知ることは、将来働く意欲ややりがいにもつながります。さらに、分からないことを質問する力や困ったときに助けを求める力、時間やルールを守る力、挨拶をする習慣なども、社会生活を送る上で大切な力です。

そして、最終的に進路を選び決定するのは本人です。周囲の支援や助言を受けながらも、自分で考え、選択し、その結果に責任をもつ経験を積み重ねることが、自立した大人として生きていく力につながります。学校と家庭が協力し、一人ひとりの成長を支えながら、自分らしい進路を実現できるよう育てていくことが大切です。家庭での日々の経験の積み重ねが、将来の自立と社会参加の確かな土台となります。

最後に、高等部では現場実習を受け入れてくれる会社を探しています。保護者の方がお勤めの会社や知っている会社がありましたら、高等部中畑までご連絡いただければと思います。ご協力お願いします。